

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 1 区分
【発行日】令和 7 年 4 月 11 日(2025.4.11)

【公開番号】特開 2024-6324(P2024-6324A)
【公開日】令和 6 年 1 月 17 日(2024.1.17)
【年通号数】公開公報(特許)2024-009
【出願番号】特願 2022-107108(P2022-107108)
【国際特許分類】

H 0 1 R 4/2433(2018.01)

10

H 0 1 R 4/2429(2018.01)

【F I】

H 0 1 R 4/2433

H 0 1 R 4/2429

【手続補正書】

【提出日】令和 7 年 4 月 3 日(2025.4.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

電線に取り付けられるコネクタであって、

前記コネクタは、相手側端子を備える相手側コネクタと嵌合可能であり、

前記コネクタは、ハウジングと、少なくとも一つの端子と、シェルと、ロケータとを備えており、

前記端子は、前記ハウジングに保持されており、

前記端子は、前記相手側コネクタと嵌合したときに前記相手側端子と接触する接触部と、前記電線に接続される接続部とを有しており、

30

前記シェルは、金属製であり、幅方向において離れて位置する二つ側壁部を有しており、

前記側壁部の夫々には、第 1 孔と第 2 孔とが設けられており、

前記第 1 孔と前記第 2 孔とは、前記側壁部を前記幅方向において貫通しており、かつ前記幅方向と直交する第 1 方向において互いに離れて位置しており、

前記ロケータは、前記第 1 方向において第 1 位置から第 2 位置に移動可能となるように前記シェルに取り付けられており、

前記ロケータには、第 1 端面と、第 2 端面と、受容孔と、許容部と、二つの突部とが設けられており、

前記第 1 端面と前記第 2 端面とは、前記幅方向と直交するとともに前記第 1 方向と交差する第 2 方向において前記ロケータの両端に位置しており、

40

前記受容孔は、前記第 2 端面から前記第 1 端面まで貫通しており、かつ前記電線の先端を受容可能なものであり、

前記許容部は、前記受容孔と連通し、かつ前記ロケータの移動の際に前記接続部の移動を許容しており、

前記突部は、前記側壁部に夫々対応しており、

前記突部の夫々は、前記幅方向において外側に突出しており、

前記ロケータが前記第 1 位置にあるとき、前記突部の夫々は対応する前記側壁部の前記第 1 孔内に位置しており、

前記ロケータが前記第 2 位置にあるとき、前記突部の夫々は対応する前記側壁部の前記

50

第 2 孔内に位置しており、かつ前記接続部は前記受容孔内に部分的に位置しているコネクタ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 4】

請求項 1 に記載のコネクタであって、

前記ハウジングは、前記第 2 方向と交差する受け面を有しており、

10

前記ハウジングの前記受け面と前記シェルの前記側壁部は、前記ロケータを収容する収容部を構成しており、

前記第 2 方向において、前記ロケータの前記第 1 端面は、前記ロケータの前記第 2 端面より、前記ハウジングの受け面に近くにあり、

前記ロケータが前記第 1 位置にあるとき、前記受容孔に挿入された前記電線の前記先端は前記受け面に突き当て可能であり、

前記第 2 方向において、前記ロケータの前記第 1 端面と前記ハウジングの前記受け面との間には隙間がある

コネクタ。

【手続補正 3】

20

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

詳細には、本発明は、第 1 のコネクタとして、電線に取り付けられるコネクタであって、

前記コネクタは、相手側端子を備える相手側コネクタと嵌合可能であり、

前記コネクタは、ハウジングと、少なくとも一つの端子と、シェルと、ロケータとを備えており、

30

前記端子は、前記ハウジングに保持されており、

前記端子は、前記相手側コネクタと嵌合したときに前記相手側端子と接触する接触部と、前記電線に接続される接続部とを有しており、

前記シェルは、金属製であり、幅方向において離れて位置する二つ側壁部を有しており、

前記側壁部の夫々には、第 1 孔と第 2 孔とが設けられており、

前記第 1 孔と前記第 2 孔とは、前記側壁部を前記幅方向において貫通しており、かつ前記幅方向と直交する第 1 方向において互いに離れて位置しており、

前記ロケータは、前記第 1 方向において第 1 位置から第 2 位置に移動可能となるように前記シェルに取り付けられており、

40

前記ロケータには、第 1 端面と、第 2 端面と、受容孔と、許容部と、二つの突部とが設けられており、

前記第 1 端面と前記第 2 端面とは、前記幅方向と直交するとともに前記第 1 方向と交差する第 2 方向において前記ロケータの両端に位置しており、

前記受容孔は、前記第 2 端面から前記第 1 端面まで貫通しており、かつ前記電線の先端を受容可能なものであり、

前記許容部は、前記受容孔と連通し、かつ前記ロケータの移動の際に前記接続部の移動を許容しており、

前記突部は、前記側壁部に夫々対応しており、

前記突部の夫々は、前記幅方向において外側に突出しており、

50

前記ロケータが前記第 1 位置にあるとき、前記突部の夫々は対応する前記側壁部の前記第 1 孔内に位置しており、

前記ロケータが前記第 2 位置にあるとき、前記突部の夫々は対応する前記側壁部の前記第 2 孔内に位置しており、かつ前記接続部は前記受容孔内に部分的に位置しているコネクタを提供する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

10

【0 0 1 3】

また、本発明は、第 4 のコネクタとして、第 1 のコネクタであって、

前記ハウジングは、前記第 2 方向と交差する受け面を有しており、

前記ハウジングの前記受け面と前記シェルの前記側壁部は、前記ロケータを収容する収容部を構成しており、

前記第 2 方向において、前記ロケータの前記第 1 端面は、前記ロケータの前記第 2 端面より、前記ハウジングの受け面に近くにあり、

前記ロケータが前記第 1 位置にあるとき、前記受容孔に挿入された前記電線の前記先端は前記受け面に突き当て可能であり、

前記第 2 方向において、前記ロケータの前記第 1 端面と前記ハウジングの前記受け面との間には隙間があるコネクタを提供する。

20

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 0】

図 9 から理解されるように、ロケータ 6 0 の許容部 6 2 7 は、受容孔 6 2 5 と夫々対応している。また、図 3 から理解されるように、許容部 6 2 7 は、端子 4 0 の接続部 4 0 7 と夫々対応している。許容部 6 2 7 の夫々は、下方へ開いており、かつ対応する受容孔 6 2 5 に連通している。許容部 6 2 7 は、接続部 4 0 7 を受容し、ロケータ 6 0 の移動を許容するサイズを有している。

30

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 4】

図 1 5 及び図 1 6 から理解されるように、ロケータ 6 0 が第 1 位置から第 2 位置へ移動すると、端子 4 0 の接続部 4 0 7 は、絶縁電線 8 2 の絶縁被覆を裂き、芯線 8 2 1 に接触する。接続部 4 0 7 が圧接片である場合、絶縁電線 8 2 が接続部 4 0 7 からの反力を受け、ロケータ 6 0 に第 1 位置へ向かう力が働く可能性がある。そのような場合でも、図 1 3 を参照して説明したように、突部 6 4 1 及び補助突部 6 2 9 が第 2 孔 5 4 3 及び第 4 孔 5 4 7 内に夫々位置するので、ロケータ 6 0 の第 2 位置から第 1 位置への移動は防止される。こうして、端子 4 0 の夫々と対応する絶縁電線 8 2 との電氣的接続が維持される。また、突部 6 4 1 及び補助突部 6 2 9 が第 2 孔 5 4 3 及び第 4 孔 5 4 7 内に夫々位置していることを視認することで、ロケータ 6 0 が第 2 位置にあることを把握できる。同時に、端子 4 0 の接続部 4 0 7 が絶縁電線 8 2 に電氣的に接続されていると判断できる。

40

50